

「古代のかたの」

交野市古文化同好会勉強会資料

おりひめちゃん



2025年11月8日（土）
於：交野市立青年の家「学びの館」

交野市地域振興部文化観光課
橋本高明

目 次

はじめに

- I. 片山長三氏とは
- II. 片山長三作『白鳳盛春之交野条里田』
- III. 片山長三氏が描いた「古代のかたの」の検証
 - 長宝寺跡
 - 東高野街道
 - 交野郡衙跡
 - 天野川条里
- IV. 「古代の交野」の現状と課題



交野市位置図

はじめに

- 交野の位置
 - ・ 河内国交野郡
 - ・ 交野郡 河内国茨田郡から分割して設置される。
(大宝2(702年))
- 古代とは
 - ・ 研究者の歴史観によって、微妙に差がある。
 - ・ 本日の「古代のかたの」の古代は、概ね飛鳥時代から奈良時代、平安時代前期まで、7世紀から9世紀頃までの話。
- 時代区分
 - ・ 原始→古代→中世→近世→近代
 - ・ 旧石器時代→縄文時代→弥生時代→古墳時代→奈良時代→平安時代→鎌倉時代→室町時代→江戸時代→明治時代→大正時代→昭和時代
(政治史)
 - ・ 飛鳥時代→白鳳時代→天平時代
(文化史) *佛教文化
 - ・ 実年代
 - 飛鳥時代 (6世紀後半～7世紀前半)
 - 白鳳時代 (7世紀後半から末)
 - 天平時代 (8世紀)

I. 片山長三氏とは

- 明治 27 (1894) に星田村に生まれる。
- 旧制四條畷中学在学中に、授業で石鏃を見せられ、自らも石器を採取して、考古学の道を歩むことになる。
- 天王寺師範学校に入学し、デッサンを学び、文部省検定（日本画・洋画）に合格し、美術教師の道を歩みはじめる。
- 旧制四條畷中学において美術・考古学の両クラブを率いて、北河内地区の遺跡発掘等で大きな成果をあげる。
- 昭和 32 年 (1957) に実施された神宮寺遺跡の発掘調査では、北河内地域初となる旧石器を発見し、学会の注目を集め。
- 交野考古学会（現在の交野古文化同好会）を設立し、奥野平次氏など多くの後継者を育てる。機関誌「石鏃」を発行、現在も継続する。
- これらの活動から交野町は、町の歴史書「交野町史」の執筆を片山氏に依頼する。昭和 38 年 (1963)、計 1,600 ページ以上にもわたる「交野町史」を刊行させる。

II. 片山長三作『白鳳盛春之交野条里田』

- 水彩画
 - ・「古代のかたの」描いた大半の作品は油絵。
- 「郡津」上空から南方を望む
 - ・鳥瞰図
- 交野の自然地形
 - ・交野の山々
 - (交野山、旗振山、竜王山：交野三山)
 - ・天野川
- 古代の集落 薦葺き屋根
 - ・郡津 ・私部 ・私市 ・星田
- 東高野街道
- 長宝寺跡
- 郡衙（郡庁）
- 条里水田



文野町史を執筆した郷土史家
かたやまちょうそう
片山長三
1894年—1988年

「星ノ町レジェンド」より抜粋

III. 片山長三氏が描いた「古代のかたの」の検証

- 長宝寺跡
 - ・発掘調査の成果 (1976・77・2024 年度)。
 - ・伽藍配置など寺院に関連する遺構は未確認。
 - ・現在の郡津神社境内から古代の瓦を大量に出土。
- 東高野街道
 - ・星田北地区の発掘調査では確認できていない
 - ・私部街道について（長宝寺跡の西に連接する南北方向の道）
- 交野郡衙跡
 - ・発掘調査の成果からは確認できない。
 - ・私部南遺跡から奈良時代の官衙を著わすような遺構と遺物を確認。
- 天野川条里
 - ・発掘調査の成果からは確認できない。
 - ・天野川の歴史を考える。

白鳳盛春之空野千里圖

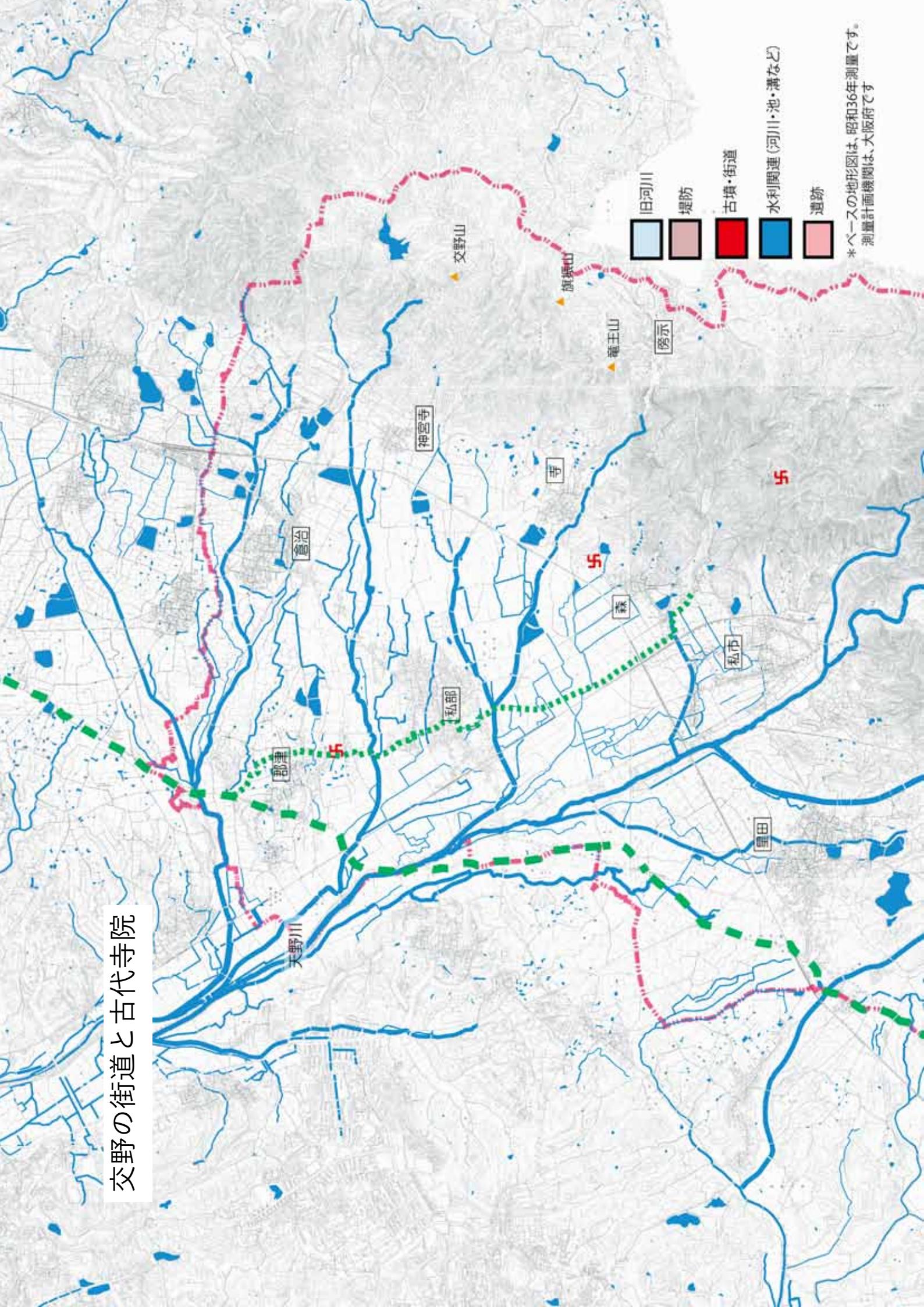
天野川条里

長宝寺

交野郡衙

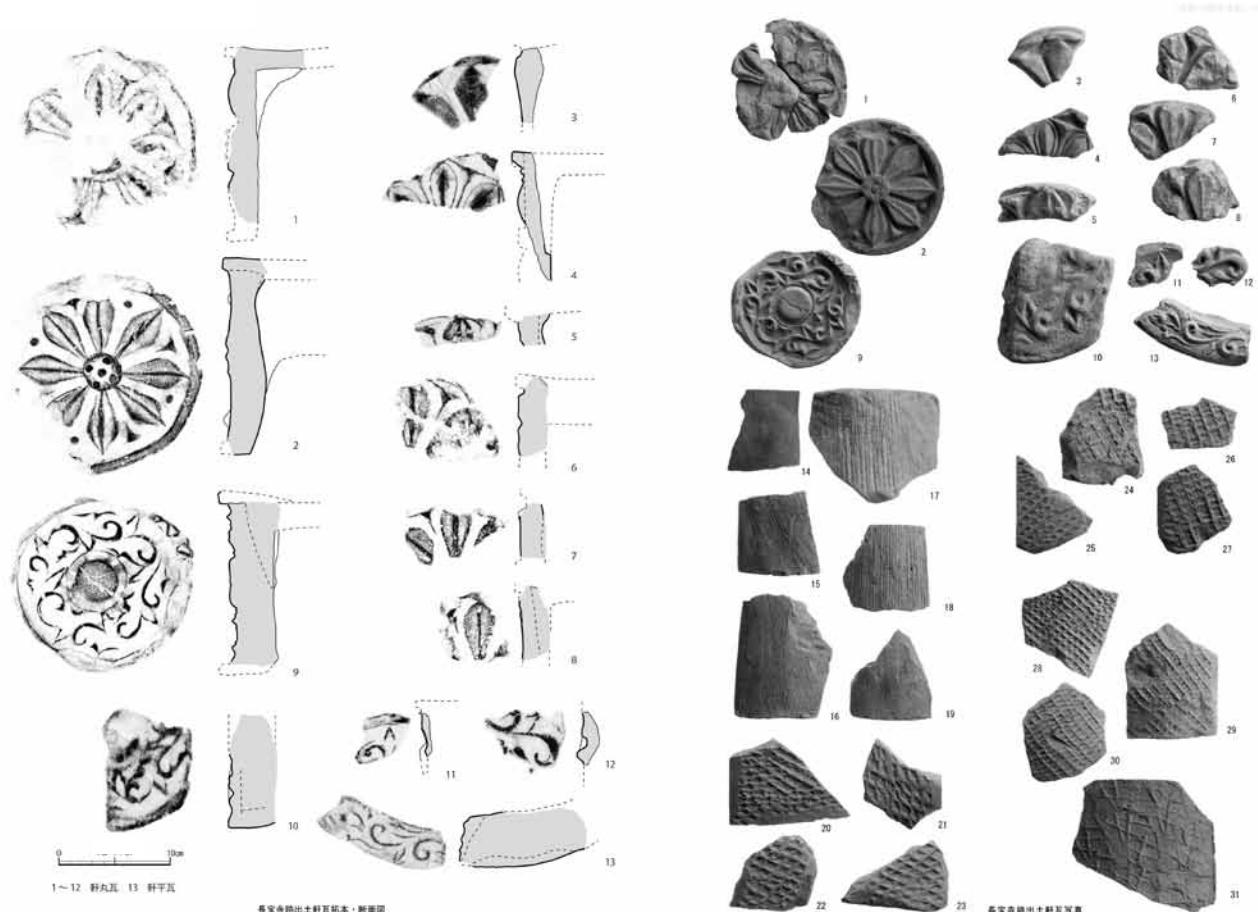
東高野街道

交野の街並と古代寺院



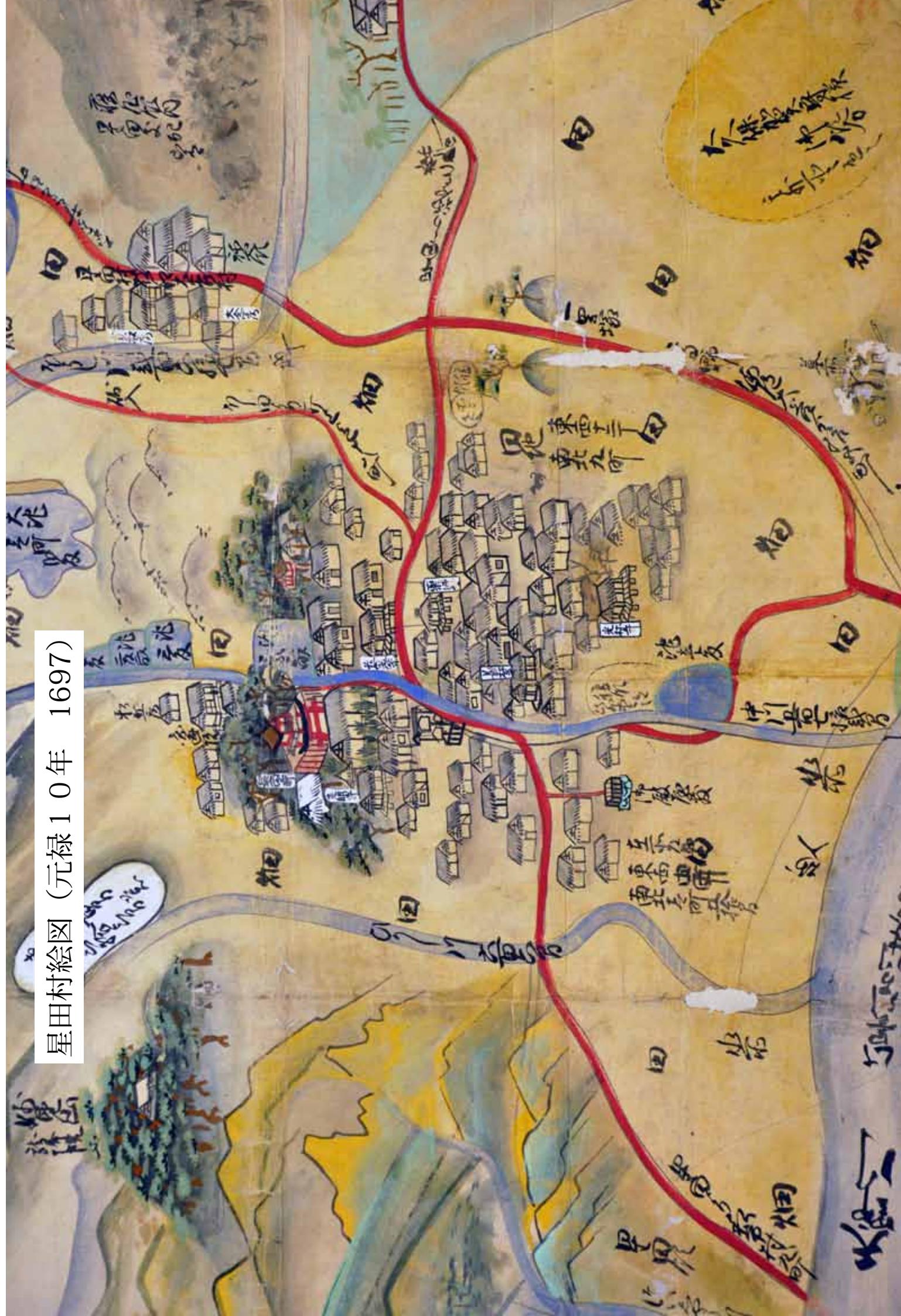


郡津神社境内（南から）



長宝寺跡出土瓦実測図・写真

星田村絵図(元禄10年 1697)



交野郡衙

○片山氏の描いた郡衙は、長宝寺の西隣

○整然と並ぶ建物群

○郡衙所在地にした根拠

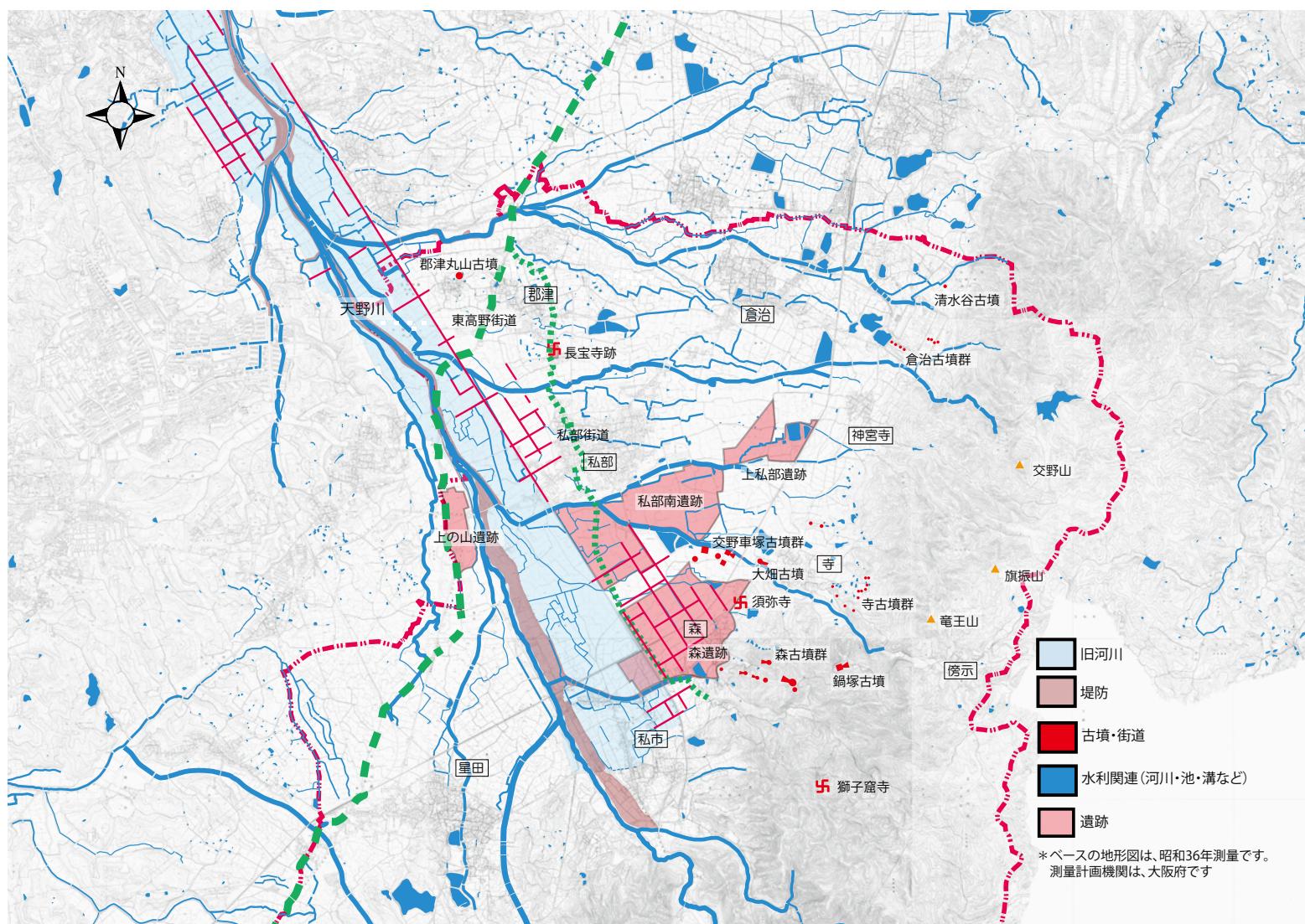
- ・郡津（地区名）
- ・倉山（小字名）
- ・東高野街道に近いなど

○発掘調査では確認できない

○私部南遺跡で奈良時代の建物群検出



片山氏が描いた交野郡衙



古墳時代から奈良時代にかけての遺跡群

古墳時代前期：森古墳群

古墳時代中期：森遺跡、上私部遺跡、私部南遺跡、交野車塚古墳群

古墳時代後期：森遺跡、上私部遺跡、私部南遺跡、寺古墳群、倉治古墳群、清水谷古墳群

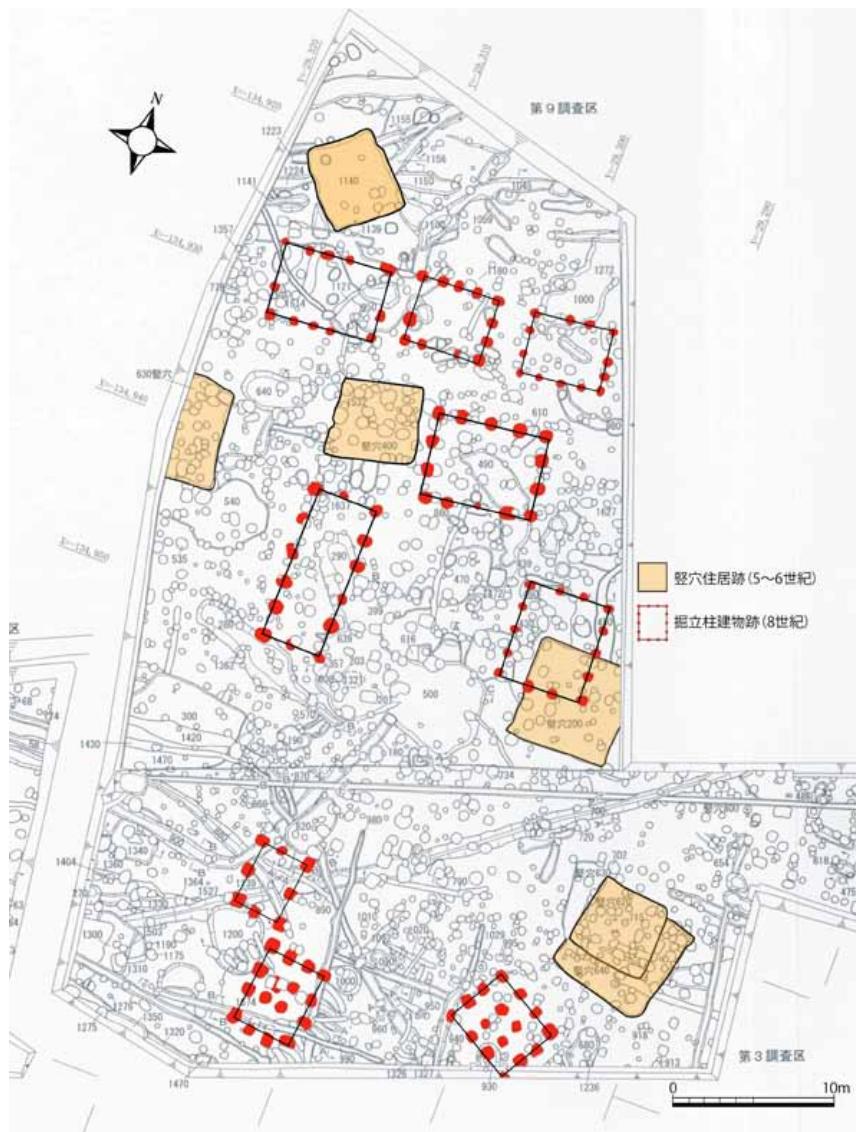
奈良時代：私部南遺跡、長宝寺跡、東高野街道、私部街道



私部南遺跡で検出された柱跡（垂直写真）



私部南遺跡の建物群



私部南遺跡
奈良時代出土遺物



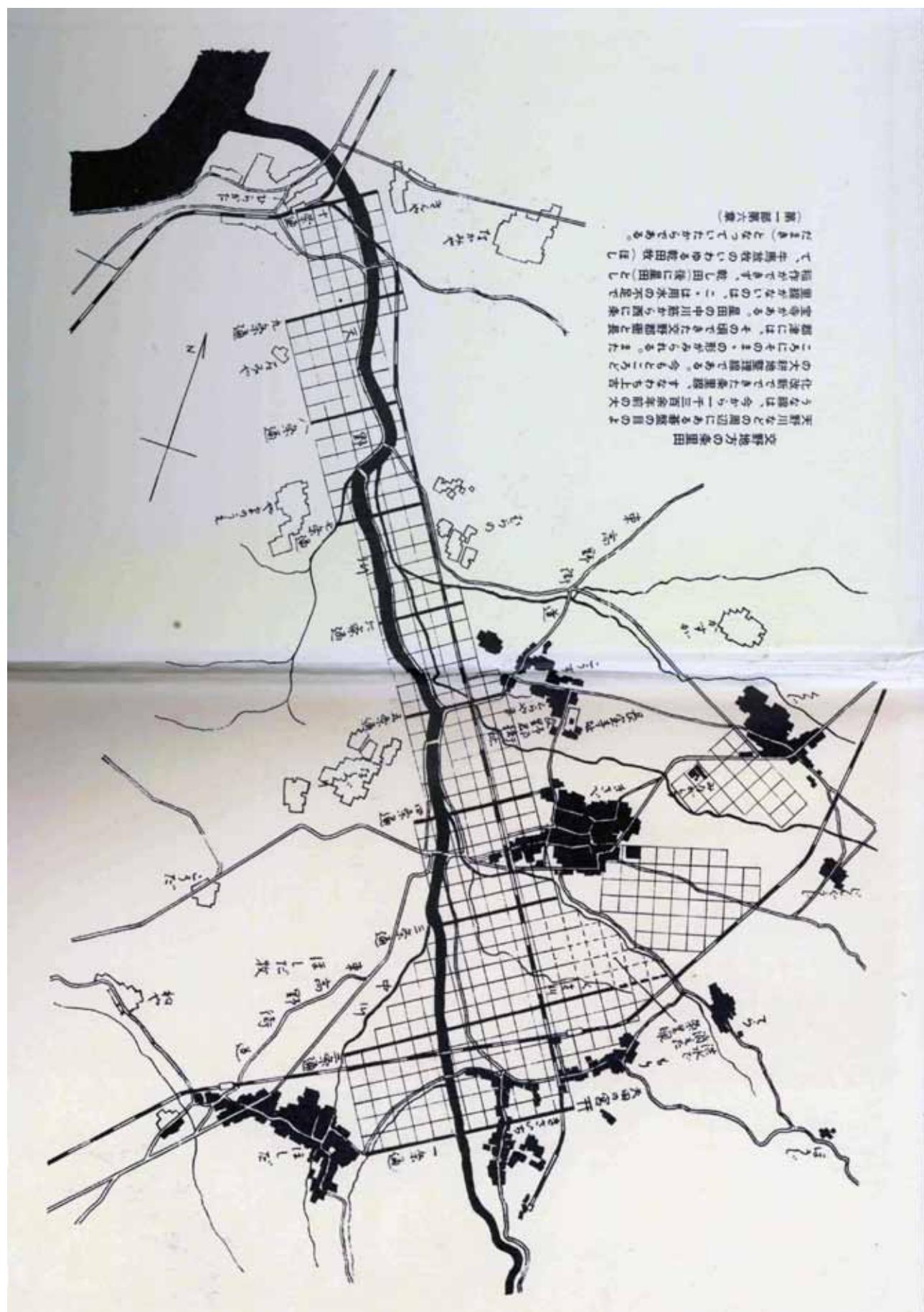
私部南出土の巡方（銅製）

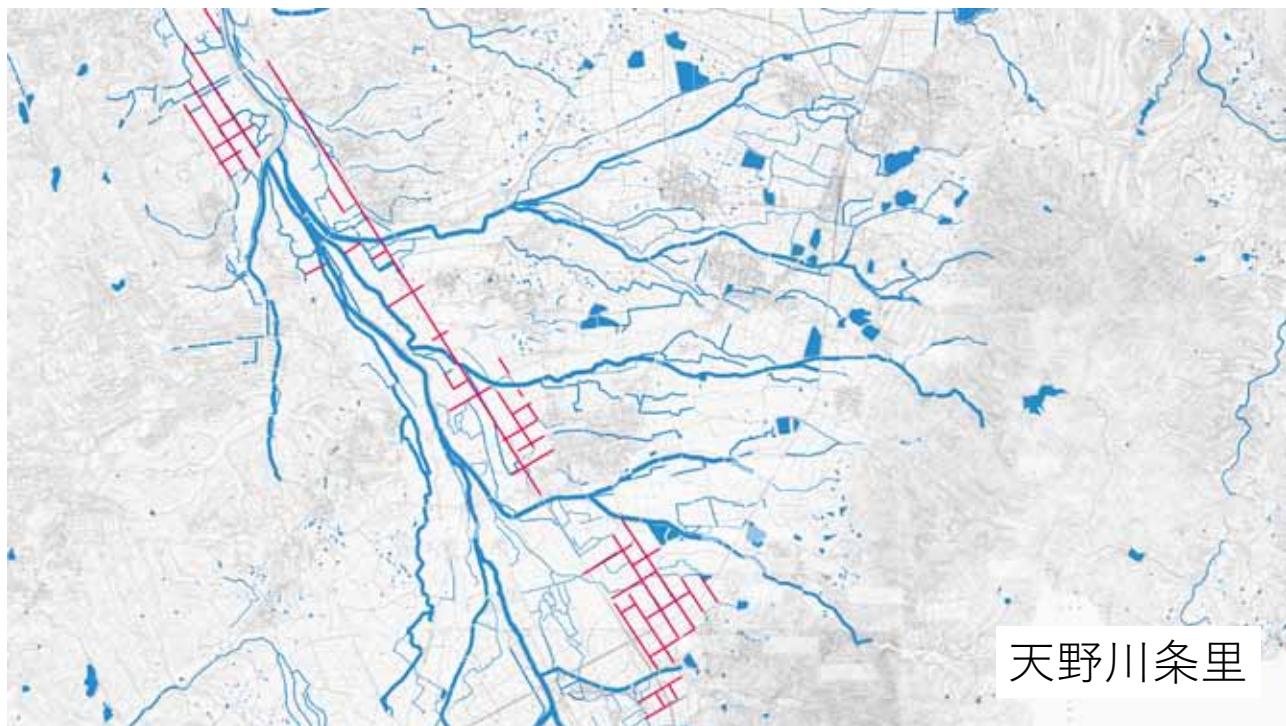
私部南出土の円面硯

（参考）太子町所在伽山遺跡出土品（銀製）



天野川条里





天野川を考える

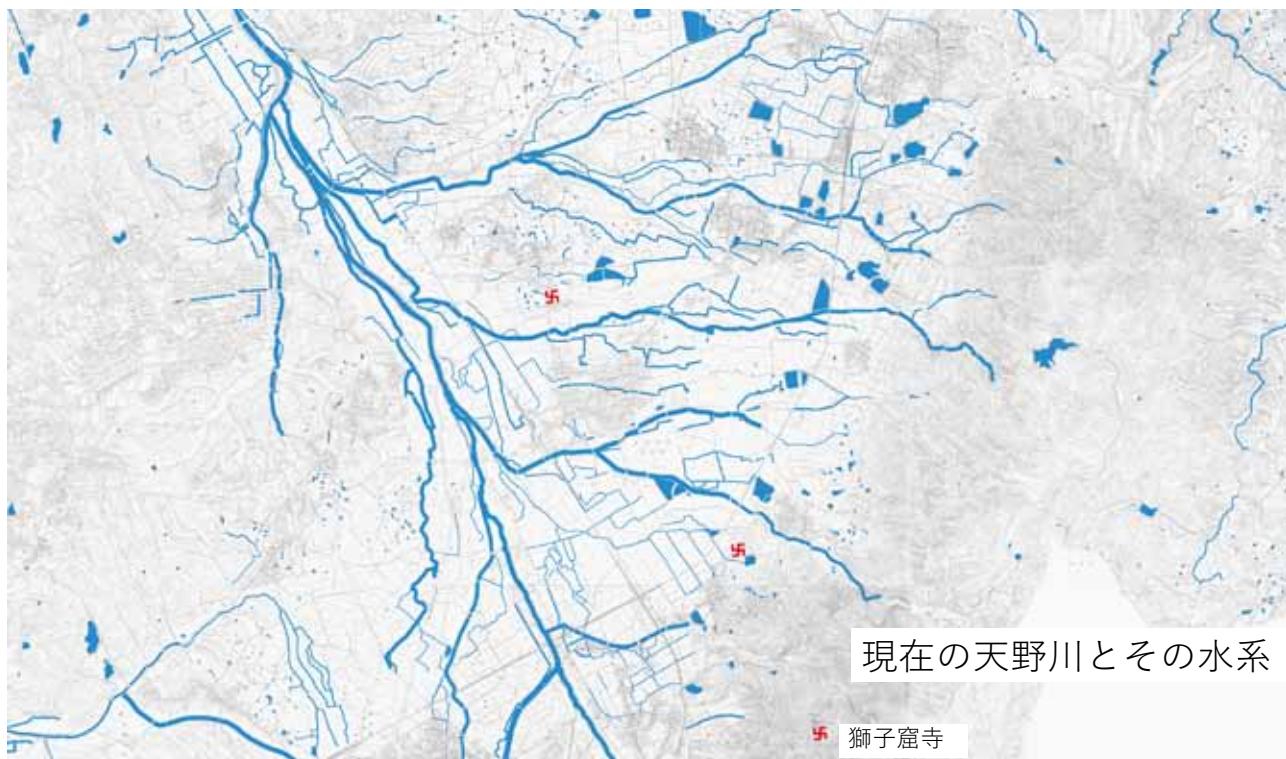
・貝原益軒が見た天野川

江戸時代の儒学者貝原益軒は、元禄2年（1689）京都に滞在したのち、河内・和泉・紀伊・大和の名所をめぐる旅に出かけ、その様子を著わしたのが『南遊紀行』です。

京都から淀・八幡を経て河内に入り、田口・郡津を過ぎ、私市に宿をとります。

翌日、獅子窟寺から、天野川を見下ろした様子を次のように記しています。

「その川まっすぐに流れ、砂川にて水少なく、その河原白く広く長くして、あたかも天上の銀河の形のごとし。
[中略] 天の川と名付けしこと、むべなり。」



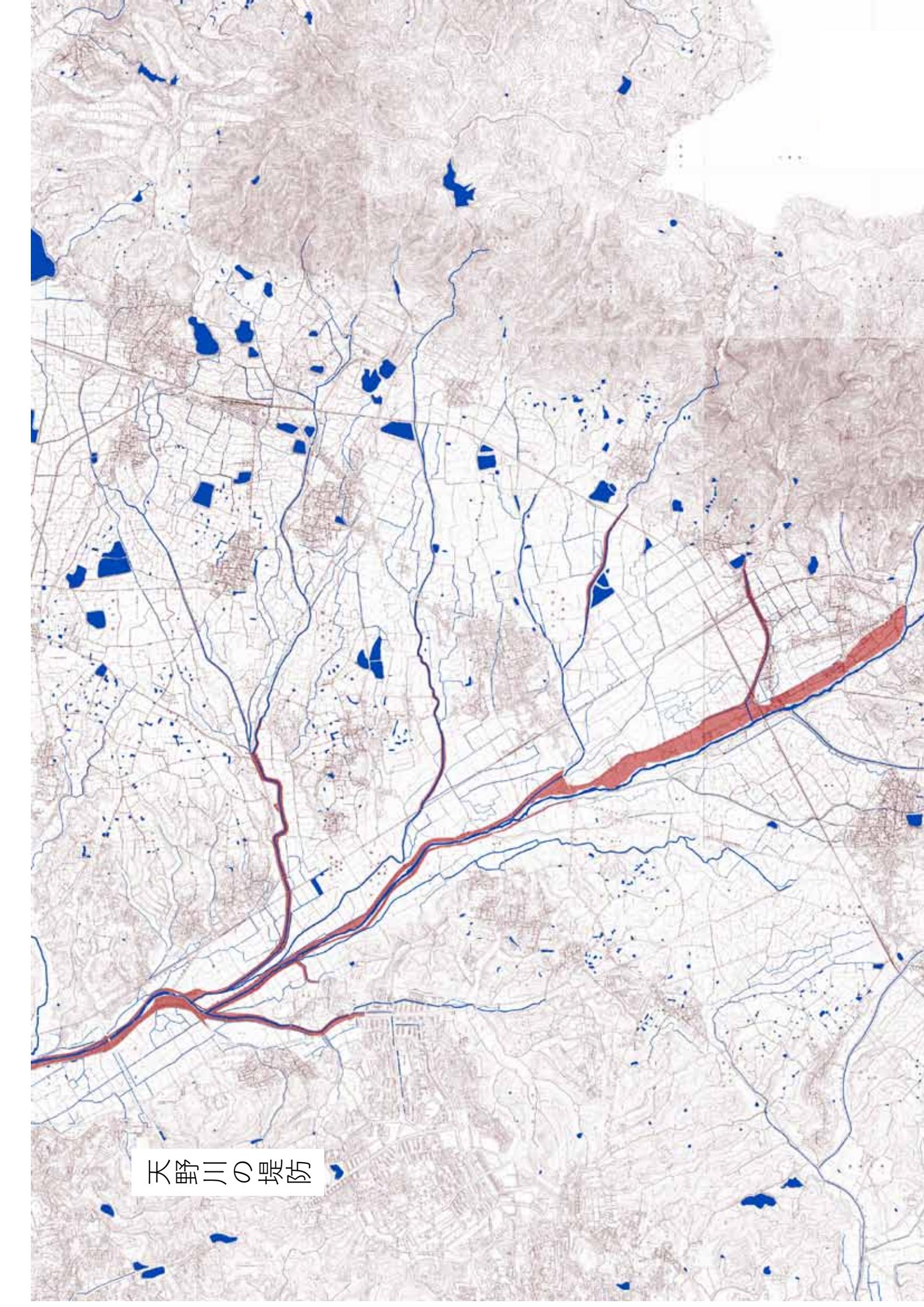
貞原益軒の見た天野川

獅子窟寺
地図

地図

地図

地図



天野川の堤防

IV. 「古代のかたの」の現状と課題

- 長宝寺跡 白鳳期の軒瓦が出土することから、古代寺院の存在は認められるが、寺院に関する遺構は検出されていない。
さらに詳細な発掘調査が必要。
- 東高野街道 東高野街道から分岐して南下する私部街道が、長宝寺跡の西側に接して存在することは、両街道とも長宝寺付近では7世紀まで遡ることも考えられる。
- 交野郡衙跡 片山氏が描いた郡津地区での「交野郡衙」は発掘調査成果からみても確認できない。
私部南遺跡が、検出された整然と並ぶ建物群や束帯や硯などの公的施設（役所）関連の出土品から奈良時代の交野郡衙の可能性が高い。
- 天野川条里 古代における条里制は認められない。
現在の天野川と貝原益軒が見た天野川の違い。
近世から近代における天野川の築堤との氾濫原の開発。



「星のあまん」
交野市星のまち観光協会
観光 PR キャラクター